

文部科学省 健康教育・食育課 御中

学校健康診断情報のP H Rへの活用推進事業 成果報告書（概要版）

株式会社野村総合研究所

2026年3月19日

NRI

Envision the value,
Empower the change



1. 本事業の背景と目的
2. 本事業の全体像
3. 学校健診PHR説明会の実施
4. ヘルプデスクでの支援
5. アドバイザー派遣による個別支援
6. ポスター・リーフレットの作成
7. 学校健診PHR導入事例集の作成
8. 学校健診PHR導入マニュアルの改訂
9. 本事業から得られた示唆

1. 本事業の背景と目的

- 学校における児童生徒等（学校に在学する幼児、児童、生徒又は学生をいう。以下同じ。）の健康診断は、児童生徒等の健康の保持増進を図り、もって学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資することを目的として実施されてきた。一方、個人の健康診断結果や服薬履歴等の健康等情報を把握・蓄積することにより、日常生活習慣の改善や必要に応じた受診、医療現場での円滑なコミュニケーション等に資することが期待されており、医療・健康政策の観点から、生涯にわたる個人の健康等情報を電子記録として把握する仕組み（P H R：Personal Health Record）の構築が求められている。
- 政府としても、「経済財政運営と改革の基本方針2024」（令和6年6月21日閣議決定）等に基づきP H Rの推進に取り組むこととしており、文部科学省においても、「デジタル社会の実現に向けた重点計画」（令和6年6月21日閣議決定）など政府全体のデジタル化の方針や、「教育データ利活用に関するロードマップ」（令和4年1月7日）で示された教育データ利活用の方針との整合性を図りつつ、学校健康診断（学校健診）について効率的・効果的なP H Rの実現に向けた取組を進めてきた。
- 貴省では、本人や保護者が学校健診結果をマイナポータルで閲覧可能とする仕組み（以下「学校健診P H R」という。）の構築を目指し、令和6年度には、学校健診P H Rの全国的な普及に向け、自治体等に向けた、説明会の開催や導入に関する相談を受け付ける体制の整備を行うとともに、導入を検討している学校設置者を対象に、政策的・技術的・実務的・法制的な観点を中心とした様々な観点から、学校健診P H Rの導入に係る総合的な支援を行ったところである。令和7年度においても引き続き、令和5年度に作成した導入マニュアルや周知資料等を活用しつつ、学校健診P H Rの安定的・効率的な実施に向けた伴走型支援等の取組を行う。

2. 本事業の全体像

説明会による制度の周知

- 学校健診PHRの制度について周知することを目的に、全国の学校設置者を対象とした説明会を実施した。
- 説明会は、参加のしやすさを考慮し、ウェビナー形式で、複数の日程を設定して実施した（計3回実施）。

→「3. 学校健診PHR説明会の実施」にて詳述

ヘルプデスクによる支援

- 学校健診PHRの導入を検討するにあたり生じた疑問を解消するために、事務局にてヘルプデスクを設置した。
- ヘルプデスクでは、常時メールによる相談を受け付けた他、個別相談会も開催し、FAQ（よくある質問）も更新した。

→「4. ヘルプデスクでの支援」にて詳述

アドバイザー派遣による個別導入支援

- 学校健診PHRの導入を検討する学校設置者を対象に、政策的・技術的・実務的・法制的な観点からの助言を行うアドバイザー派遣による個別支援を行い、3学校設置者に対する個別支援を実施した。

→「5. アドバイザー派遣による個別支援」にて詳述

ポスター・リーフレットの作成

- 制度の周知を図るためのポスター・リーフレットを作成した。
- ポスターは、文部科学省の指定する箇所へ送付した。

→「6. ポスター・リーフレットの作成」にて詳述

導入事例集の作成

- 学校健診PHRの導入促進等に資する資料として、学校健診PHR導入の事例を取りまとめた『学校健診PHR導入事例集』を作成した。

→「7. 導入事例集の作成」にて詳述

導入マニュアルの改訂

- 過年度事業において公開されている『学校健診PHR導入マニュアル』について見直しを行い、改訂が必要な箇所については改訂を行った。

→「8. 導入マニュアルの改訂」にて詳述

3. 学校健診PHR説明会の実施

- 学校健診PHRの制度について周知することを目的に、全国の学校設置者を対象とした説明会を実施した。

項目	内容
実施目的	<ul style="list-style-type: none"> • 学校健診PHRについての理解を深める。 • 学校健診PHRの導入に向けた伴走型支援についてのご案内をする。
対象	<ul style="list-style-type: none"> • 主に全国の学校設置者
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> • 特定の地域に偏らず、広く全国からの参加を可能とするため、ウェビナー形式での実施とした。
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> • 主催挨拶・学校健診PHRの政策趣旨 • 学校健診PHRについての説明 • 学校健診PHR導入に向けた伴走型支援の案内 • 質疑応答
実施日程	<ul style="list-style-type: none"> • 令和7年7月18日（金） 14:00～15:00 参加者数：168名 • 令和7年7月24日（木） 14:00～15:00 参加者数：154名 • 令和7年8月5日（火） 14:00～15:00 参加者数：127名
会場の確保	<ul style="list-style-type: none"> • ウェビナーに適した配信会場を確保した。

4. ヘルプデスクでの支援

- 学校健診PHRについての疑問を気軽に相談できるヘルプデスクを設置し、以下の通り、学校設置者等への情報提供を行った。

1

問い合わせへの対応

事業期間中にヘルプデスクを開設し、同時受付数や時間的制約の少ない手段であるメールにて質問を受け付け、適宜回答を行った。

2

個別相談会の実施

メールでの問い合わせを補完する手段として、1相談者あたり30分程度のオンラインでの個別相談会を実施した。

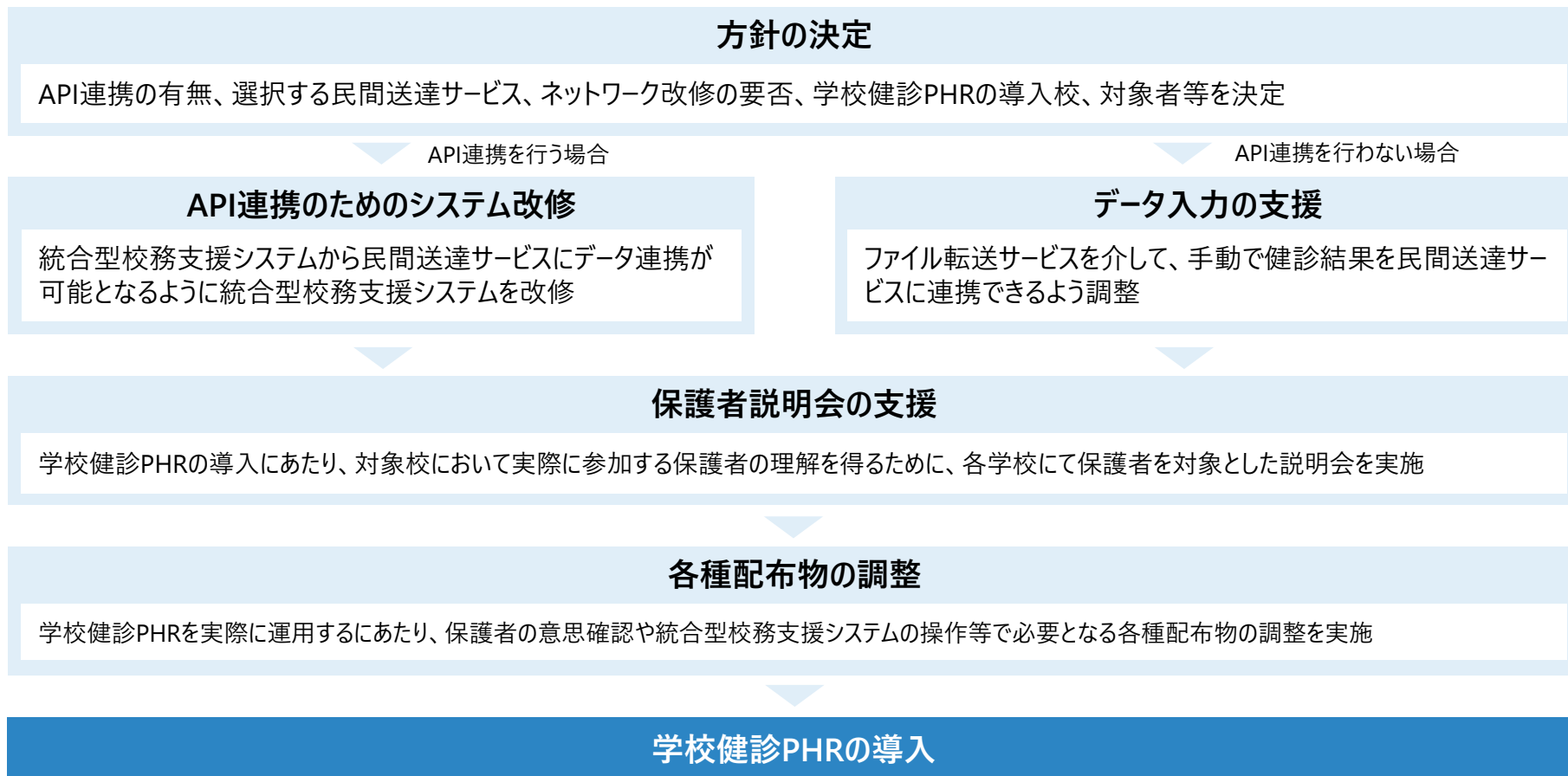
3

FAQ（よくある質問）の更新

学校健診PHRの説明会での質疑やヘルプデスクでの相談を基に、FAQ（よくある質問）を更新した。

5. アドバイザー派遣による個別支援（全体像）

- 以下の流れで、個別の学校設置者への導入を支援した。



5. アドバイザー派遣による個別支援（API連携のためのシステム改修・データ入力の支援）

- 学校健診PHRを導入する学校における統合型校務支援システム導入有無やシステム改修のタイミング等を勘案し、API連携によるデータ連携か、手動でのデータ連携を選択した。
- API連携によるデータ連携を行う場合は、民間送達サービスとデータ連携可能となるように統合型校務支援システムの改修作業を行った。

API連携のためのシステム改修

- 統合型校務支援システムから民間送達サービスにデータ連携が可能となるように統合型校務支援システムを改修。
- 事務局では、システム改修のための調整を支援。

【事務局による支援内容】

- 統合型校務支援システムベンダー、民間送達サービスとの仕様調整
- 統合型校務支援システムベンダーによる改修の進捗管理
- 統合型校務支援システムと民間送達サービスの外部連結テストの管理
- 統合型校務支援システムと民間送達サービスの疎通確認

データ入力の支援

- 学校健診PHR利用希望者のリストや健診結果をExcelに入力し、マクロ等を利用してデータ化後、ファイル転送サービスを介して民間送達サービスに送付。
- 事務局では、健診結果送付に関連する作業にあたっての支援を実施。

【事務局による支援内容】

- 健診結果データ整備にあたってのアドバイス
- 健診結果の送付にあたっての民間送達サービスとの調整

6. ポスター・リーフレットの作成

- 学校健診PHRの周知を目的として、中高生を対象としたポスターと、保護者を対象としたリーフレットを作成した。ポスターについては印刷の上、指定箇所へ送付した。

ポスター（B2判）

健康情報の継続した記録・管理で健康への意識が少しずつ変わる

むし歯ないかな…

思ったよりも身長が伸びていたよ

昨年と比べて視力はどうかな

文部科学省
学校健康診断PHRへの活用

リーフレット（A4判）

【表面】

見返しやすい健診結果で家族の健康がもっと身近に

むし歯ないかな…

思ったよりも身長が伸びていたよ

昨年と比べて視力はどうかな

成長も健康も“見える化”する時代へ。学校健診PHRで新しい自分管理。

子供の健康を身近に感じられる安心

日々の生活の中で、子供の小さな変化に気付くのは意外と難しいものです。学校健診の結果を確認することで、成長に気付いたり、体調の変化の子高が見えたりします。スマホで学校健診の結果を手軽に見渡すことができるようになれば、子供の健康をより身近に、確かに見守れます。

医療機関とのコミュニケーションのために

子供が急に医療機関を受診した際に、身長や体重をきかれることがあります。学校健診の結果が手元になくても、スマホで学校健診結果を参照できれば、スムーズにコミュニケーションをとることができます。

紙の健診結果が手元になくても大丈夫
最新情報を紙の健診結果を見なくても大丈夫

病院での問診票記入がスムーズに
お子さまの健康情報をすぐに参照でき、正確に伝えられます。

マイナンバーカードで安全に管理
本人確認がしっかり行われた上で、ご家庭でのみアクセスできます。

【裏面】

学校健診PHRとは？

現在、国が推進する「パーソナル・ヘルス・レコード(PHR)」は、健康や医療に関する情報を自分自身で管理できる仕組みです。学校の健康診断でも、学校健診PHRの導入が検討されており、児童生徒等の健診結果を保護者が自身のスマートフォンなどから安全に確認できるようになります。紙の結果を保管・持ち歩く手間がなくなり、必要なときにすぐ確認できるなど、日常生活での利便性も向上します。

どうやって使う？

学校に利用の意思表示をします
申し込めば校内で手続き
※学校健診PHRを導入している学校のみで利用可能

マイナンバーと民間送達サービスに登録
マイナンバーカードを使ってオンライン登録

スマートフォンで健診結果を確認
学校が登録した健康診断の結果が、マイナンバー上で確認できるようになります。

よくあるご質問

Q. 学校に対してマイナンバーカードの写しや11桁のマイナンバーを提出しなければならないのでしょうか？
A. マイナンバーカードはご自身でマイナンバーを利用する際のみ使用します。マイナンバーカードの写しやマイナンバーを学校に提出することはありません。

Q. 自分の健康診断結果を他の児童生徒等に見られることはないのでしょうか？
A. 個人のマイナンバーを基にして健診結果を確認するので、他の児童生徒等に自分の健康診断結果を見られることはありません。

Q. 国が健康診断情報を一元的に収集し、二次利用されることにつながるのでしょうか？
A. 個人(保護者・児童生徒等)に直接情報が提供されるものであり、民間送達サービス事業者や国が健康診断結果情報を収集する仕組みとはなっていません。

文部科学省
学校健康診断PHRへの活用

7. 学校健診PHR導入事例集の作成

- 学校健診PHRの導入促進等に資する資料として、学校健診PHR導入の事例を取りまとめた『学校健診PHR導入事例集』を作成した。

『学校健診PHR導入事例集』

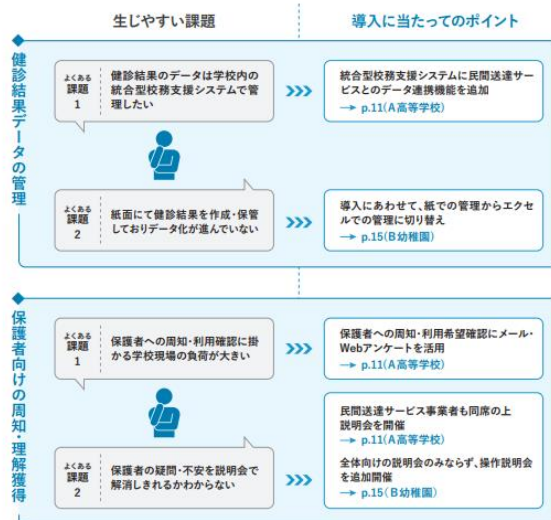
学校健診PHR 導入事例集

文部科学省
2026.04

II. 学校健診PHRの概要

2 学校健診PHR導入に向けた課題とポイント

- 学校設置者が実際に直面しやすい課題と、その課題を解決するために工夫が可能なポイントをまとめました。実際の導入事例における課題と導入に当たってのポイントは、「III. 学校健診PHRの導入事例」にて詳細に掲載しています。



目次構成

目次

I. はじめに	02
1 学校健診PHRとは	02
2 本事例集作成の背景と目的	04
3 本事例集の活用方法	05
II. 学校健診PHRの概要	06
1 学校健診PHRの全体像	06
2 学校健診PHR導入に向けた課題とポイント	07
3 導入事例一覧	10
III. 学校健診PHRの導入事例	11
A 高等学校(私立)	11
B 幼稚園(国立)	15
C 小学校(公立)	19
D 大学(国立) ※アドバンス事例	22
IV. 参考資料(活用できる資料例の掲載)	25

8. 学校健診PHR導入マニュアルの改訂

- 過年度事業において公開されている『学校健診PHR導入マニュアル』について、以下の観点で見直しを行い、改訂の可否を判断した。

見直しの観点

情報の正確性

- 掲載されている情報に誤りはないか

情報の明確性

- 掲載されている情報に誤解を招くものはないか

現状との整合性

- 最初にマニュアルを作成した際から大きく前提が変わった事項はないか

その他

- その他、マニュアルに掲載されることによって事業の進展を阻害する情報はないか

改訂のポイント

情報の最新化

- リンク切れやリダイレクトが発生しているURLを更新
- 統計データを最新の数値に差し替え

記述の標準化・汎用化

- 特定のサービス名を一般的な用語へ改め、ツールの変更に影響されない記述に変更
- 導入手順を見直し、特定のサービス利用を前提としてない記述に変更

参考資料の適正化

- 参考資料の構成や内容を精査し、取捨選択を実施
- 一部参考資料について内容を改訂

9. 本事業から得られた示唆

- 本事業を通して得られた成果に対して、学校健診PHR導入のプロセスごとに、①目指すべき状態、②本事業における状況、③今後の対応方針案、を整理した。

	①目指すべき状態	②本事業における状況	③今後の対応方針案
制度の認知	<ul style="list-style-type: none"> 「学校健診PHR」という制度を知っている。 学校健診PHR導入の意義や必要性を認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明会や周知資料等によって、学校健診PHRの制度そのものへの認知や必要性については学校設置者に浸透し始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業にて作成した周知資料等も活用しながら、引き続き、制度の目的やメリット等について浸透を図る。
検討・判断	<ul style="list-style-type: none"> 導入にあたって検討する項目が明らかになっている。 諸条件を踏まえて、導入することが決定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入にあたっての検討が十分になされているとは言い難い。 導入の判断に至っている学校設置者が大多数とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入にあたっての判断基準となる事例の拡充に努める。 学校設置者が判断を行うタイミングでの適切な情報提供を行う。
導入・立ち上げ	<ul style="list-style-type: none"> 導入にあたっての初期設定が完了している。 健診データの送付や、児童生徒等や保護者がデータの閲覧をできている。 	<ul style="list-style-type: none"> アドバイザー派遣による支援を行った学校については、問題なく健診結果のデータ送付や結果の閲覧ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、導入にあたっての支援を継続しつつ、学校設置者または学校が独力で作業を遂行するにあたって参考となる情報を整備する。
活用・定着	<ul style="list-style-type: none"> 学校において、学校健診PHRの機能を使いこなしている。 「電子データによって健診結果を確認する」ことが当然になっている状態。 	<ul style="list-style-type: none"> ヘルプデスクの助力を得ながら、学校において必要な作業を実施している。 利用者対象者による学校健診PHRへの申し込みは十分とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> より制度の魅力を高めるために、次なる展開としての制度設計を検討する。 利用者となる児童生徒等や保護者に対しても制度の周知を図る。



**Envision the value,
Empower the change**